

平成25年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	秋田県教育委員会
研究開始年度	平成25年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名 (ふりがな)
秋田県	特別支援学校	秋田県立比内養護学校 (あきたけんりつひないようごがっこう)
秋田県	特別支援学校	秋田県立ゆり養護学校 (あきたけんりつゆりようごがっこう)
秋田県	特別支援学校	秋田県立稲川養護学校 (あきたけんりついなかわようごがっこう)

2 研究テーマ

新学習指導要領の趣旨等を踏まえ、多様なニーズに応じた教育課程の編成

3 研究の内容

(研究内容)

障害の重度・重複化、多様化が進んでいる県内特別支援学校児童生徒の自立と社会参加に向けた指導の改善を図るため、知的障害特別支援学校3校を指定し、教育課程の編成等についての実践研究を行った。

比内養護学校では、交流及び共同学習や地域の人材、イベントの活用など、地域とのつながりを重視した生活単元学習の授業づくりを通して、教育課程の検討を進めた。

ゆり養護学校では、生徒指導の課題解決に向け、学習指導と生徒指導を両輪とし、生徒指導の観点を生かした授業づくりと研修を通して、教育課程の検討を進めた。

稲川養護学校では、卒業生の職場定着の課題から地域社会と連携したキャリア教育の必要性を重視し、全学部での働く力を育む授業づくりを通して、教育課程の検討を進めた。

(評価の観点及び評価方法)

授業づくりでは、チェックリストなどを活用して自校職員から評価を得たり、児童生徒の自己評価や地域の方々などの関係者評価を行ったりした。また、他校職員等からの評価機会としては、各校で公開研究会を1回、授業研究会を3回行った。

教育課程については、授業づくりや各研究会での意見・助言などの評価を踏まえ、学部会や教育課程検討委員会など研究組織を活用して検討した。

4 研究成果の概要

(成果と課題)

三校共通の成果は、研究の全体像の整理により全職員が共通理解できたこと、授業づくりを通して教育課程の検討を進めることができたことである。課題は、校内組織を十分活用した教育課程の改善と分かりやすい提示である。

比内養護学校では、地域に展開する生活単元学習を通して、他者との関わりが量的・質的に充実した。課題は、生活単元学習と他の指導の形態との関連である。

ゆり養護学校では、研修等を通じた生徒指導の基本理解により、児童生徒理解等に基づく授業づくりができた。課題は、生徒指導の観点を生かした単元づくり等である。

稲川養護学校では、高等部の教育課程の検討・整理を進めることができた。課題は、小・中学部の教育課程の検討・改善と三学部の一貫性である。